

「天満神社の由緒と宮相撲の由来」

天満神社氏子所蔵資料より抜粋

1 天満神社の由緒

直見宮垣に鎮座する天満神社の由緒は、平安時代の前期、天徳 3 年(959) 第 62 代 村上天皇が、野見(直見)の県主(あがたぬし)の野見宿禰(のみのすくね)の末裔(まつえい)の霊夢(れいむ)により、菅原道真公の梅の木像を御神体像として祭祀したのが天満神社の縁起(えんぎ)(創立起源)と云われています。

明治 40 年(1907) 武神社(山中)、八柱神社(金谷)、八幡神社(大泊)、近江神社(西垣)の 4 社を合祀、上夜久野村社格となりました。(後に武神社は元に復す)

樹齢 300 年を超える大銀杏(京都府で 2 番目と云われる)から神社の歴史の重みが窺えます。

2 相撲の始祖 野見宿禰(のみのすくね)が県主として直見を支配

古墳時代の後期、大和政権の時代(聖徳太子の摂政の時代)、第 11 代垂仁(すいにん)天皇が大和国当麻(奈良県葛城市当麻町)の当麻蹴速(たいまのけはや)と出雲国(島根県)の勇士と云われた野見宿禰(のみのすくね)を当麻に召喚して相撲を取らせ、野見宿禰が圧勝したことにより当麻の地を与えられたといわれています。(日本書記)

その後、野見宿禰は垂仁(すいにん)天皇に仕え、野見(のみ)(直見)の県主(あがたぬし)に任ぜられ当地方を治めることになりました。(古墳時代後期 年代不詳)

4 天満神社の祭神は菅原道真公

菅原道真(すがわらのみちざね)(845~903)は平安時代の貴族、学者、政治家で、第 60 代醍醐天皇に右大臣(天皇を補佐し政務を統轄する役人)として仕えていましたが、左大臣(右大臣の上位役人)藤原時平の策略により都から太宰府(福岡県)に左遷されました。

菅原道真の死後、朝廷では怪死事件が頻発して朝廷が混乱しました。醍醐天皇は菅原道真のたたりだとして、これを鎮めるために天暦元年(947)京都に北野天満宮を建立して、菅原道真を天神さん(天の神)としてお祀りし始めました。混乱が収まった後に、菅原道真が学者であったことから学問の神として崇める信仰が起り、全国各地の天満宮(神社)で祀られるようになりました。

5 天満神社の宮相撲の由来

天満神社の宮相撲の由来の歴史を伝える資料はありませんが、大和政権の時代に相撲の始祖と云われた野見宿禰が県主として当地方を治め、平安時代(959 年)第 62 代 村上天皇が野見宿禰の末裔の霊夢により、菅原道真公の梅の木像をお祀りしたのが天満神社の縁起と云われる由縁により、宮相撲が広まったとも伝えられています。

直見天神さんの宮相撲は近隣の地方で有名となり、江戸末期から明治、大正時代が最も盛んであったと云われています。10 月 10 日の祭礼の日は夜久野の各村はもとより、梁瀬(朝来市山東町)、養父(養父市)、但馬(豊岡市但東町、出石町)にいたる各村々から門弟を引き連れて乗り込んで来て、大盛況であったと云われています。

*宮相撲 祭礼(祭り)のときに、神社の境内で取る相撲

6 天満神社の宮相撲には、相撲取りがいた

天満神社の宮相撲の力士は、「四股名」を持っており、煌びやかな「化粧回し」が力士のひいき筋や親類、有志から贈られていました。現在では、4本の化粧回しが天満神社の氏子の家で保存・伝承されています。

また、有力な力士を顕彰するために、門弟や地域の有力者が世話人となって相撲取りの碑を建立しています。

*現存する化粧回し：糸櫻、広瀬川、水車、若柳

*相撲取りの碑：広瀬川の碑(大正8年建立) 栗尾に建立

7 宮相撲から奉納相撲に

昭和に入り宮相撲の力士はいなくなり、厳しい不況、戦前・戦中の社会の混乱と暗黒の時代で、天満神社の奉納相撲も中断を余儀なくされましたが、戦後に氏子の青年が祭礼の奉納相撲を復活しました。秋の大祭が近づくと青年達は、連日稽古を積み、力強い気迫のこもった相撲で祭礼を盛り上げていました。

*奉納相撲：健康と力に恵まれた男子が、神前でその力を捧げて神様に感謝と敬意を表するために取る相撲

8 奉納相撲に子供相撲が始まる 小学校には土俵が造られた

昭和30年(1955)代に入ると祭礼の前相撲として小学生の高学年による子供相撲が始まりました。相撲の勝者には花(賞金)が貰えるとあって、子供も真剣そのもので土俵に上がっていました。

9 高度経済成長の時代 農村社会の変化 昭和40年代には、地域の伝統的文化が衰退

昭和30年代後半から40年代に、経済の高度成長と共に若者の都市への流出が続く中で農村社会が弱体化し、全国的に地域の伝統的行祭事、文化が衰退していきました。

天満神社の奉納相撲も農村社会の変遷の中で青年層が減少し、途絶えていくことになります。

10 昭和57年に地域の青年が奉納相撲・相撲甚句を復活

昭和57年(1982)には天満神社氏子の青年有志が、天満神社の奉納相撲を復活して祭りを盛り上げ、昔の賑わいを取り戻そうと立ち上がり、「天満神社相撲保存会」を結成し、かつて奉納相撲を取ってきた古老から指導を受けて奉納相撲と相撲甚句を復活させました。鎮守の森には再び勇壮な相撲のかけ声が響き、20年振りに祭りの賑わいを取り戻しました。

平成13年(2001)には、伝統ある奉納相撲を伝承・保存するため相撲伝承館が建設されました。

11 平成14年には、天満太鼓の奉納

平成14年(2002)に天満神社氏子の青年有志が、新たに太鼓のグループ「天神」を立ち上げて、天満太鼓の奉納を始め、地域に新たな郷土芸能が誕生しました。